

いたばしの文化

発行：板橋区文化団体連合会 会長：川口 雅敏 編集：板橋区文化団体連合会広報部



第57号

CONTENTS

題字：板橋区長 坂本 健

- | | |
|-------|--------------------------|
| 02 | 区民文化祭とともに
文化連創立 50 周年 |
| 03 | 令和 5 年度区民文化祭 |
| 04・05 | 文化を楽しむ暮らし |
| 06 | いたばしを伝える |
| 07 | 俳句でつなぐ 心と情 |
| 08 | 新風いたばし・板橋温故知新 |



区民文化祭とともに 文化連創立50周年

板橋区文化団体連合会
会長 川口雅敏

令和5年、板橋区文化団体連合会（以下、文化連と略します）は創立50周年を迎えました。文化連の歩みは、区民文化祭とともに歩んだ50年でした。

●文化の光をともし続けて

昭和23年戦後の混乱が続く中で、板橋区は「第1回区民美術展」を区議会議事堂で開催しました。その後様々な文化・芸術活動が盛んになり、昭和25年に板橋区総合文化祭がスタートし、現在の区民文化祭につながります。

昭和30年代40年代の文化祭は大変な人気で、当時の板橋区の職員によると、参加し

込みを開始すると区役所の電話回線がパンクし、はがきが殺到。職員はてんでこ舞いの忙しさだったそうです。



令和4年度区民文化祭演劇のついで「11びきのねこ」

●新たな区民文化祭をめざして

年秋に多くの区民に参加・観覧していただく。区内で最大の「文化のお祭り」となりました。

区民文化祭は「区民誰もが参加できる、区民のための文化祭」という基本的なあり方を大切にしていきます。これはスタート以来変わらない考えです。

しかし、長い年月を経て、参加者・観覧者の減少、実施する文化連側の担い手不足など、いくつかの問題が垣間見えています。

その後、区民文化祭は、文化連誕生の翌年に板橋区から文化連へ委託され、その後、板橋区と文化・国際交流財団、文化連の3者共催で実施する形になり現在に至ります。

73年前に産声を上げた区民文化祭は、コロナ禍で中止になった令和2年度を除き、毎年このころは今後の区民文

板橋区文化団体連合会 創立50周年を祝して

板橋区長 坂本 健



板橋区文化団体連合会が創立50周年を迎えましたこと、誠にありがとうございます。

文化連の皆様におかれましては、創立当初から熱心な活動とたゆめぬ努力により区の文化芸術振興にご貢献いただいております、先人の思いを受け継ぎながら、今日に至るまで活躍されていることに感謝するとともに、改めて感謝申し上げます。

今後も区とともに、板橋の魅力ある文化芸術の発展にご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

この記念すべき年を契機に、皆様の益々のご活躍・ご発展を心より祈念しております。

●区民文化祭の歩み

- ・昭和23年 板橋区主催で「第1回区民美術展」が始まる
- ・昭和25年 「板橋区総合文化祭」スタート
- ・昭和30年 区民会館落成。文化同好会の活動が盛んになる
- ・昭和48年 板橋区の働きかけで19団体がまとまり板橋区文化団体連合協議会が設立される
- ・昭和49年 「板橋区総合文化祭」は「板橋区民文化祭」として板橋区文化団体連合協議会に委託される
- *昭和54年 区立美術館落成
- *昭和57年 区立文化会館落成
- ・令和2年 新型コロナウイルス感染症のため、開始以来初の中止となる



昭和63年度区民書道展・区民美術展
多くの作品が会場一杯に展示された



第一部 一般・大学生



平成2年度日本民謡のついで。出演者1502名が519曲の民謡を唄い、演奏した



●板橋区文化団体連合会の歩み

- ・昭和48年 19団体により板橋区文化団体連合協議会が設立される
初代会長 小野澤政吉氏
- ・昭和49年 板橋区から「板橋区民文化祭」の事業委託を受ける
- ・昭和53年 板橋区文化団体連合会に改称
- ・昭和62年 2代目会長 大野喜久雄氏就任
- ・平成元年 文化連事務局が設置される
- ・平成21年 3代目会長 小林保男氏就任
- ・平成28年 区民文化祭前夜祭実施
- ～令和元年
- ・令和3年 4代目会長 川口雅敏氏就任
- ・令和5年 文化連50周年 加盟24団体

文化連と区民文化祭の次の一歩に向けて、文化芸術に関心を寄せてくださる多くの皆様のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



9月・10月の催し		
催し	日程	会場
いけ花展	9月30日(土)・10月1日(日)	区立文化会館 大会議室
お茶会	9月30日(土)・10月1日(日)	区立文化会館 茶室・和室
バレエ&ダンス秋の祭典	10月1日(日)	区立文化会館 大ホール
区民手打ちそば体験講座1回目	10月7日(土)	清水地域センター
日本民謡のつどい	10月8日(日)	区立文化会館 大ホール
日本趣味のつどい	10月8日(日)	区立文化会館 小ホール
区民書道展	10月12日(木)~15日(日)	区立美術館
吟詠剣詩舞区民のつどい	10月15日(日)	区立文化会館 小ホール
美術家作品展	10月18日(水)~22日(日)	区立美術館
阿波おどり大会	10月21日(土) 区民まつり参加	グリーンホール前道路
区民美術展	10月25日(水)~29日(日)	区立美術館
区民俳句大会	10月28日(土)	区立文化会館 大会議室
詩のつどい	10月29日(日)	区立文化会館 大会議室
小倉百人一首大会	10月29日(日)	区立文化会館 和室
11月の催し		
催し	日程	会場
書家作品展	11月1日(水)~5日(日)	区立美術館
日本舞踊のつどい	11月3日(金・祝)	区立文化会館 大ホール
演劇のつどい	11月4日(土)・5日(日)	区立文化会館 小ホール
合唱のつどい	11月5日(日)	区立文化会館 大ホール
謡曲と仕舞のつどい	11月5日(日)	区立文化会館 和室
珠算競技大会	11月12日(日)	高島平区民館ホール
歌謡まつり	11月19日(日)	区立文化会館 大ホール
三曲のつどい	11月19日(日)	区立文化会館 小ホール
区民囲碁大会	11月19日(日)	グリーンホール 1階ホール
民謡のつどい	11月23日(木・祝)	区立文化会館 大ホール
区民手打ちそば体験講座2回目	11月25日(土)	志村コミュニティホール
青少年音楽のつどい	11月26日(日)	区立文化会館 大ホール

- 発熱があるなど体調がすぐれない場合はご来場をお控えください。
- 施設内のマスク着用は個人の判断となります。混雑時や継続的な発声を伴う公演等、必要に応じて着用してください。
- 施設内での咳エチケットや手洗いの励行を推奨します。

お問い合わせ

板橋区文化団体連合会事務局
☎ 3579 - 3321

最新情報はこちらから

板橋区文化・国際交流財団
ホームページ
<https://www.itabashi-ci.org/cul/events/9920/>



文化連の関口雅美樹副会長、中原道夫副会長、木村なつみ副会長が令和4年度板橋区政功労表彰を受賞しました。これを祝って令和5年3月19日(日)区立文化会館大会議室で136名の参加者を集め合同祝賀会が華やかに開催されました。

全国にお花を
お届けします

◇式典企画・冠婚葬祭
◇フラワーディスプレイ *企画デザイン*
◇テーブルアレンジメント
有限会社 **ライトフラワー**
代表取締役 桑名邦次
〒174-0054
東京都板橋区宮本町 66-7
TEL 03 (3960) 3641
FAX 03 (3969) 1543

遊座 大山商店街
板橋区 大山東町四六一五
〇三(三九六)七〇〇八

季節の和菓子
秀月堂

板橋区茶華道連盟推薦

株式会社 **長太郎不動産**
Best choice for your life
東京都板橋区成増3-23-5
3930-0002(代)
www.choutarou.co.jp
成増・高島平・蓮根・本蓮沼・大山・平和台
春日町・光が丘・和光市・川越・若葉・坂戸



令和5年度
第32回 春の歌謡まつり
主催：板橋区歌謡連盟 後援：板橋区・板橋区文化団体連合会

また、歌を歌うことは心身の健康に大変良いと言われています。腹式呼吸を意識して歌うことで、腹筋や横隔膜が鍛えられます。口腔の環境も良くなり、誤嚥防止に役立ちます。音程やリズムをとったり歌詞を覚えることで脳が活性化されます。脳内の幸せホルモンが活性化されストレス解消になります。

さあ、皆さん！今日も元気に歌を歌いましょう。

文化を楽しむ暮らし



百人一首連盟に入って良かったこと

百人一首 田中莉央

「面白いアニメがあるけど見る？」と父が私に勧めたアニメが「ちはやぶる」でした。すぐに夢中になり、友達が加入していた百人一首連盟に入会しました。小学4年生で入会し、高校2年生になる現在まで月3回日曜日の午後にかかるたの練習を続けています。

入会して良かったことは、学校以外の友達ができたことです。練習でかかった友達に会うのがとても楽しみでした。

また、かるたのおかげで、忍耐力ができました。小学生のころは大会で負けそうになると泣いていましたが、練習を重ねて最後まで諦めずに頑張れるようになりました。

そして、高校1年の秋に初段を獲得できました。練習の時に先生方や上級者の方が熱心にご指導くださったおかげだと思っています。

昨年からは板橋区民文化祭の小倉百人一首大会も再開され、百人一首連盟の活動もコロナ前に戻りつつあります。これからも楽しくかかるとの練習を続けていきたいと思っています。

歌好き、集まれ！

歌謡 小林健一

歌の会には人に勧められて入会して、はや20年。歌を通じた仲間もでき、現在も仕事をしながら「文化を楽しむ暮らし」をしております。

歌を覚えるのに、以前はテレビやラジオで気に入った曲を仕入れ、その曲のレコードやカセット、CDを購入する必要がありました。今はユーチューブで、昔の歌から新曲まで、ほとんどすべての曲がいくらでも簡単に検索でき、自分のペースで覚えることが可能になりました。

歌謡連盟では、唄が好きで皆さんに楽しい交流の場を提供し、歌の上達を促し、更には舞台の上で歌うことの喜びと緊張感を味わっていただきたいと思っています。

また、歌を歌うことは心身の健康に大変良いと言われています。腹式呼吸を意識して歌うことで、腹筋や横隔膜が鍛えられます。口腔の環境も良くなり、誤嚥防止に役立ちます。音程やリズムをとったり歌詞を覚えることで脳が活性化されます。脳内の幸せホルモンが活性化されストレス解消になります。

さあ、皆さん！今日も元気に歌を歌いましょう。

着物を着て一緒に舞台上で踊りましょう

民踊 藤間清太郎

民踊連盟では民謡による民舞や新舞踊・日本舞踊とそれぞれの特徴を生かした方たちが集まり、地域文化の継承と創造を目標に和の文化・日本の踊りを楽しんでいます。

2月の「迎春の集い」区立文化会館大ホール、4月に「春のをどり」小ホール大会、初夏には区民参加の「盆踊り講習会」地域センター、秋には板橋区民まつり「民踊パレード」、区民文化祭「民踊のつどい」大ホールなど、一年を通して開催しています。

今年の区民文化祭「民踊のつどい」の体験コーナーでは、子供たちから成人まで「一番初めは」「舞い上がれITABASHI」他など「着物を着て一緒に舞台上で踊りましょう！」とお誘いしております。

あなたのそばにいつも民謡を

民謡 鈴木弘



個人コンクール、三味線合奏、合唱、ちびっこ達の歌声、最後に各部門優勝者による総合優勝決定戦で幕を閉じました。

板橋区民謡連盟は民謡の普及および地域文化の発展に努め、年ごとに組織の充実を図り、板橋区内民謡界に確固たる基盤を築いてまいりました。

地域の特質を生かし民謡を通じて明るい家庭と社会となることを願っています。

詩文を味わって吟じる喜び

詩吟 伊島賢心

詩吟を趣味にして60年になります。昭和の時代は後半までカラオケは流行していませんでした。近所の方に誘われて始めました。大きな声を出すことは健康に良く、腹式呼吸で心肺機能を強化し、自分の体を育てています。

詩吟は、千数百年の間続いてきた日本漢詩に特有の節をつけ吟じます。詩吟は一種の無形文化として命脈を保ち発展してきました。

日本の歴史や伝統文化を吟ずることは、老若男女の区別なく礼節を身に付け、青少年健全育成と、善導に寄与しています。

詩吟の良さはどこにあるのでしょうか。音楽に自信がなくとも、声が特別良くななくても習うことができます。吟じながら漢詩、和歌、俳句、新体詩のそのものを味わうことができ、知らず識らずのうちに教養が豊かになり、詩文の内容を深くつかみ、感動的に詩を吟じることができるようになります。

伝統文化を吟じていると、一人の人間として、努力を刻み、行為の文化を伝えると申してよいと思っています。

我慢の開催を乗り越えて

囲碁 関原宣之



やっと新型コロナウイルス感染の影響で3年間全ての催事が中止となりましたが、令和5年度4月に民謡連盟会員の皆さんの協力で、文化会館小ホールで、「民謡春のつどい」を開催いたしました。

コロナウイルス感染の影響で3年間全ての催事が中止となりましたが、令和5年度4月に民謡連盟会員の皆さんの協力で、文化会館小ホールで、「民謡春のつどい」を開催いたしました。

やっと新型コロナウイルス感染の影響で3年間全ての催事が中止となりましたが、令和5年度4月に民謡連盟会員の皆さんの協力で、文化会館小ホールで、「民謡春のつどい」を開催いたしました。



令和4年度 板橋区民文化祭
第47回 日本民謡のつどい
主催：板橋区民謡連盟 後援：板橋区文化団体連合会

また、歌を歌うことは心身の健康に大変良いと言われています。腹式呼吸を意識して歌うことで、腹筋や横隔膜が鍛えられます。口腔の環境も良くなり、誤嚥防止に役立ちます。音程やリズムをとったり歌詞を覚えることで脳が活性化されます。脳内の幸せホルモンが活性化されストレス解消になります。

さあ、皆さん！今日も元気に歌を歌いましょう。

あなたのそばにいつも民謡を

板橋区民謡連盟

民謡連盟会長
原田直将
TEL3935-7019

GO!
●入会ご案内●
月例会・グリーンホール
第2日曜/午前9時30分
連盟会費 500円
大会参加費 1000円

入会随時
板橋区囲碁連盟

板橋区三曲連盟
箏・三弦・尺八の演奏団体

耳に聴こえるさわやかな音色
心にやすらぎを

伝統の音色を未来へつなぐ

関口雅美樹
03-3938-6096

青少年音楽振興協会

音楽活動を通じて区内の青少年を中心に音楽的育成と演奏活動の普及を行っています。私達の活動に興味を持たれた方は、まずはお問合せ下さい。

03-5980-8037 馬場

板橋区民踊連盟

民踊のつどい
11月23日(木・祝)
文化会館大ホール

板橋区 日本趣味の集い

日本舞踊、箏曲、江戸芸、端唄、長唄、琵琶、沖縄音楽、空手など、日本の伝統文化・音楽の様々なジャンルが集う団体です。区民文化祭と一緒に演奏披露しませんか。皆様のご入会をお待ちしています。

若柳正樹
049-246-3783

吟剣詩舞道連盟 五訓

一、詩を吟じて心身の健康に努めよう
一、詩を吟じて明るく楽しく元氣よく
一、詩を吟じて青少年の育成に努めよう
一、詩を吟じて心豊かな社会づくりに努めよう
一、詩を吟じて幸せな人生を楽しみましょう

いたばしを伝える

農耕と稲作の文化を 今に伝える

大門餅つき保存会会長
本橋光男

江戸時代から始まったとされる餅つきは、家々の祝い事等には村人が集まり餅つき歌を歌いながら多くの餅をついたものであり、また近所の方々、親戚に祝餅として配ったものもあります。また、農家の保存食として多く用いられてきました。

機械化（合理化）された近年では、身近で観ることが殆どできなくなりました。

去年は農業まつりと、大門町会子ども餅つき大会で披露することができました。

この様な催しを観て、観客あるいは子ども達の中から興



餅つき唄に特色がある大門の餅つき



楽しみながら伝統行事を体験

味を持つていただければ幸いです。

当地の餅つきは、その時歌う餅つき唄があり、唄の練習も定期的に行っています。

農耕文化と稲作文化を今なお伝えていのが大門餅つきです。貴重な文化を次の世代に伝えていく方法を見つけて出すお手伝いをしていきたいと考えています。

里神楽を舞い続けて

相模流萩原由郎社中
里神楽五世 萩原由郎

私の家は明治の頃より里神楽を生業にしてまいりました。現在は、先代より伝わる沢山の面・衣装・諸道具を使い、伝統芸能である里神楽を演じさせて頂いております。

里神楽とは面をつけ衣装を着、鳴り物に合わせて舞を踊るもので、基本的には声は出さず、手まねや仕草で気持ちを表現する芸能です。

古事記、日本書紀を題材とする神代神楽やおとぎ神楽など、多くの演目があります。

社中には、神楽七福人という他ではめったに見られない演目があり、板橋区でも農業まつりやアクトホールで演じました。

これは大正時代まであった神楽を先代が苦勞して昭和50年頃に再生したものです。もし機会があればご覧ください。私の社中では幸いの事に多くの若い人の参加が増え、笛



声は出さず手まねや仕草で気持ちを表現



令和4年度板橋農業まつりで 子供たちも興味深々

太鼓、舞を稽古して、どのような演目でも任せられるようになりました。

里神楽に興味がある方がおられれば、お近くの神社祭礼その他イベントの時にお声掛けくだされば、色々とお答えできると思います。これからも、自分自身、神楽に精進していく所存でございます。

板橋区俳句連盟

令和5年度板橋区民文化祭は10月28日(土)に区立文化会館にて実施いたします。

令和6年3月は俳句連盟主催の俳句大会を開催いたします。

投句も受け付けます。

また小学校の寺子屋にて俳句教室を行っています。

会長 米田達仁 ☎090-5437-9710

謡は一人でも楽しめますが、集まってシテ・ワキなど役付けして謡うのも楽しいものです。花伝会に入会して一緒に謡いましょう。

板橋区謡曲連盟

花伝会



会員募集中

月1回のお稽古(観世部会 宝生部会) 謡跡めぐりも行っています。

連盟事務局 田辺☎090-1253-9907

書道文化振興に邁進

書は人なり心なり

板橋区書道連盟

近隣の教室(先生)をご紹介いたします
会長 前田惣遠

☎03-3937-5049



ぶらり、いたばし

まちあるき・イベント・グルメ情報は板橋区観光協会HPで!





昭和6年、埼玉県所沢市生まれ。

R・M・リルケの詩、宮澤賢治の生き方に影響を受けて詩作を始めた。

詩を通して他者と共生することに詩の魅力があるという。

平成2年から板橋区詩人連盟会長。現代詩の普及と発展に努めるとともに板橋区から多くの詩人を世に送り出した。

モンゴル、インド、中国、ネパール、カナダ、韓国などの詩人と交流し、相互理解に努めるなど、活動範囲の広さは群を抜いている。

令和3年、1年延びた東京2020大会の聖火ランナーを務めた。90歳の時だった。

最新刊は、令和4年12月発行の詩集「空」。

これからの抱負は、「生涯現役で、もうしばらく生きる。」

与謝蕪村賞、埼玉文芸賞、埼玉文化賞、板橋区民栄誉賞ほか、受賞多数。

日本詩人クラブ名誉会員、日本文藝家協会・日本ペンクラブ会員、埼玉文芸家集団代表。

詩集15冊、評論集5冊、小説2冊、エッセー集ほか、執筆多数。



板橋区詩人連盟会長
中原道夫

日頃の不養生が祟ったせいか、突然左腕がだらりと下がってしまい、腕に全く力が入らない。自分の腕のようではないのだ。

すぐに病院に行き、MRIを撮ってもらうと、脳の毛細血管に多くの血栓が見られ、枯れ木に白い花が咲いているようである。

即入院、そして手術との診断。「脳梗塞」という怖れていた病名

そのものも、心にずしんとおしかかってくる。

折からの炎暑。「避暑にきたと思えばいいのよ」の妻の言葉は、慰めの一語なのだ

ろうか。駐車場の轍の中に干乾びた蟬の亡骸があった

だが、わが身にかさなってくる。

この時、私の想念の中に強く浮かんできたのは、この手術という貴重な体験を、みすみす見逃していいものなのかということであった。

けれど、これは散文では、たんなる記録的なものになるだろうし、「詩」のかたちにはならないとの思いになった。

そこでベッドの上で書けるものというところで、詠んだものが俳句である。

二十句を詠んだのだが、その中の十句を紹介する。

俳句でつなぐ心と情

◆ 蟬の死が目の前に有り干乾びて

◆ 稲妻に合わせて走るストレッチャ

◆ 目覚めれば万緑目覚めねば亡妻のもと

◆ 連山はすべて夏の日死も生も

◆ 生も死もぶら下げている雲の峰

◆ 戻り梅雨点滴棒がわが伴侶

◆ リハビリも光の見える秋の風

◆ 生きることまた少し伸びて秋の蝶

◆ 秋日傘三本足を覆いけり

◆ 秋うらら妻が後ろからついてくる



板橋区俳句連盟顧問
上田 桜

昨年の夏、詩人連盟の中原道夫氏からFAXが届いた。FAX

の題名は「脳梗塞病床二十句」中原氏は著名な詩人である。

90歳を過ぎても多忙で何よりお元気です。作者の心と読み手の情

（こころ）が作品を通してお互いに気持ち通じ合える魅力があります。

品を拝読させていただくと、脳梗塞という病気に対する不安が感じられた。その不安は手術や死を意識する作品であり、また術後の経過の安堵感でもあった。

私は病床二十句の心を感じ取り、返句として十五句を書き中原氏へ送信した。病気はきつと良くなり、元気になるという願いを携えて書いた。十五句のうち十句を紹介する。

俳句は自然だけでなく、挨拶や存問、消息を詠む短詩形の文学です。

（こころ）が作品を通してお互いに気持ち通じ合える魅力があります。

◆ 空蟬に生命の記憶満ちており

◆ 気力とは生きる源秋の空

◆ 亡妻と妻いて男冥利や生きて秋

◆ 月も星も手で攬むには早すぎる

◆ 黄泉路まで通行禁止星月夜

◆ 白露めく不滅の時間点滴針

◆ 天も地もめざめの時や地虫鳴く

◆ 此の世へと願いたずさえ回帰の蝶

◆ よかったとひとこと添えて見舞う秋

◆ ここにある今幸せの十三夜

無料ご招待!

文化連創立 50 周年記念公演

笑いで祝う 文化連の新たな門出

落語 柳家権太楼 講談 神田 蘭
12月6日(水) 開場 11時 / 開演 11時 30分
区立文化会館小ホール

- 対象 区内在住・在勤・在学の方
 - 定員 150人(応募者多数の場合は抽選)
 - 観覧料 無料
 - 申込 10月20日(金) 必着、往復はがきに
 - ①文化連 50周年記念公演観覧希望
 - ②希望人数(1枚の往復はがきで2名まで申し込みます)
 - ③郵便番号・住所
 - ④氏名(ふりがな)
 - ⑤電話番号 を明記のうえ、
- 〒173-8501 板橋区板橋2-66-1
板橋区役所 文化・国際交流課内 文化連事務局へ
●問合せ 文化連事務局 ☎03-3579-3321



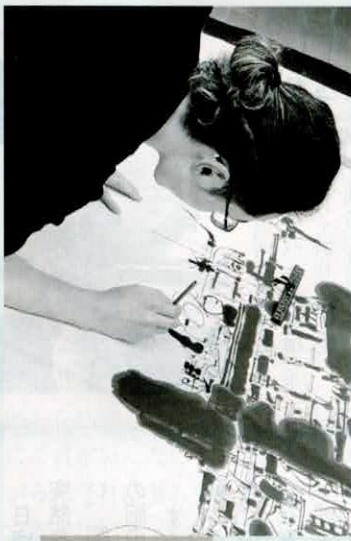
新風いたばし

書の余白、暮らしの余白

内川 雄生

私は5歳から書を書き続け22歳になる現在、現代書道家 YUURU A として活動をしています。その創作活動において大切にしていることがあります。それは「余白」です。

書に限らず芸術に触れるのであればインプットす



なわち、知識を蓄えることは必然です。そうして自分の趣味や嗜好を理解し、どのような表現方法でアウトプットするかをいつも試行錯誤しています。「書」は実用性が高く、また古典の勉強に対する比重が大きいため、作家らしさを希薄にさせてしまっている印象があります。

実際、古典の勉強は技術や精神の向上に欠かせないものですが、プラスチックで独自性を追求することも必要です。私の場合は建築や絵画などから多角的に書に向き合う中で、無意識の中の意識、何も考えずぼーっとする時間、「余白」を大切にしています。

まだまだ未熟ですが、色々なことを吸収しこれからも芸術活動に臨んでいきたいです。そして、次の世代へ繋げられるように活動していくことが重要だと思っています。



令和4年度 区民書道展 区長賞受賞作品

板橋温故知新

板橋区学芸員 吉田 政博

家康と板橋

家康と板橋、どうつながる?

天正18年(1590)7月、関八州に勢力を有していた戦国大名北条氏は、豊臣秀吉が率いる約20万人の大軍によって本城小田原城が包囲され、3か月にわたる籠城の末に降伏するに至りました。

北条氏が滅亡すると、伊豆・相模・武蔵・上野・上総・下総の北条氏分国は豊臣秀吉によって徳川家康に与えられるこ

となり、家康は江戸を本城とします。

伝承によると家康とその家臣は、三河・遠江・駿河・甲斐・信濃の旧領

5か国から速やかに関東へと移住し、同年8月1日に江戸城に入城したといわれています。なお、その後、徳川将軍家では伝統的な武士の「八朔」の祝日と家康の江戸入城日を合わせてお祝いしたとされています。

●板橋での足跡

関東に入国した家康は、各地で盛んに鷹狩を実施しています。その目的は主に戦鬪行為の鍛錬の場としての意味合いがあったと考えられています。また、それに加えて、新たな領地となる東国各地の民情視察を兼ねていたとも考えられています。

「新編武蔵風土記」の「下板橋宿の竹根権現社(仲宿46番1)」の項には、「東照宮此辺 御経歴ノ時、用イサセ給ヒシ御竹杖ヲ祭レリト云」とあり、同じく轡神社権現社(仲町46番3)の項には、「東照宮御乗馬ノ轡ヲ祭リシトモ、又御履ヲ祭ルト云ヘド慥ナラズ」とあって、ともに東照宮(徳川家康)が



ひっそりと佇む下板橋宿の竹根権現社



区内下板橋宿に訪問した際の故地において、家康が使用していた竹杖や轡・履物が当地に奉納され、「権現社」が祀られ、人々の信仰の対象となっていたことが記述されています。

おそらくは、家康が鷹狩などで当地へと訪れたことが伝承化したのだと思われます。なお、轡神社には以前に紹介した源義経に関わる伝承も残っています。

●板橋区有形文化財指定の朱印状も

また、天正19年11月には、区内板橋宿の乗蓮寺、智清寺、同じく赤塚の松月院に対し、それぞれの寺領を安堵する朱印状を家康が発給しています。

なかでも松月院の朱印状は徳川歴代将軍とあわせて原本そのものが残っており、家康が使用した「福德」の朱印が押された貴重な史料です。これはまた、徳川家康に直接かわる区内唯一の資料となっており、昭和59年度に板橋区の有形文化財(歴史資料)に指定されています。

人とまちを文化でつなぐ

板橋区 文化団体 連合会

〒173-8501
板橋区板橋2-66-1
板橋区役所文化・国際交流課内
☎3579-3321 FAX3579-2046
e-mail: kb-bk-kanri@city.itabashi.tokyo.jp